

今朝も皆さまとともに主を礼拝できることを感謝します。今朝からアドベント、待降節に入りました。アドベントとは、主イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスを待ち望む期間です。救い主イエスさまが私たちのためお生まれくださいましたことに感謝し、再び来られるイエスさまを特別に待ち望む期間でもあります。今年のアドベント・クリスマスの時も、救い主イエスさまのお誕生に感謝しつつ、心から神さまをともにほめたたえて参りたいと願っています。救い主イエス・キリストは、私たちを罪から救うためにこの地に来てくださいました。そしてこのお方は、私たちに神さまの御心を教える「ことば」なるお方であると聖書は私たちに教えています。

今朝の招きの言葉で読んでいただいたヨハネの福音書1章1節にこうありました。

### 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

この「ことば」とは人としてこの地に来られた神の子イエス・キリストを指しています。イエスさまがことばである。イエスさまは私たちに神さまの御思いを教えるお方として、この地に来てくださったということです。

私たちは今年「あなたのみことばは私の足のともしび、私の道の光です」という御言葉を年間の聖句として掲げてきました。主の2025年も残すところあと1月とちょっとですが、この年の終わりの近づく時、アドベントの時に覚えたることは、イエスさまこそ神さまの「みことば」なるお方であること。神のことばを信じみことばに従うとは、イエスさまを見上げイエスさまに従うことなのだと思います。

今朝のみことばはイエスさまの母となったマリアのところに、イエスさま誕生の知らせが告げられる場面、いわゆる「受胎告知」と言われる有名な出来事です。私たちがクリスマスの季節のたびに繰り返し聞いているイエスさま誕生の知らせ。ここにも、神さまのみことばを語る御使いガブリエルと、そのみことばに誠実に従う処女マリアの姿が記されています。今朝はこの御言葉から、主の御言葉に従う幸いと、そこにある確かさ喜びにともに目を向けていきたいと思います。

### 神にとって不可能なことはない

今朝の箇所にはガブリエルという御使いが出てきます。このガブリエルは、先日のザカリヤへのヨハネ誕生の時にも遣わされてきた御使いでした。またこのガブリエルという名前の御使いは旧約聖書のダニエル書にも出てきます。このガブリエルがマリアという女性に現れて、救い主の誕生を語る。処女であるマリアを通して救い主イエスさまがお生まれになる。それが今日の箇所が私たちに教えていることです。28-33節をお読みします。

御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。

見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。

その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

突然の訪問とあいさつに戸惑うマリアに、御使いは救い主の誕生を告げます。そして生まれてくる子は大いなる者となりいと高き方の子と呼ばれる。そしてそのお方は永遠にヤコブの家、イスラエルを治めるお方となるのだというのが御使いの語る神さまのご計画でした。さらに34-37節。

マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょう。私は男の人を知りませんのに。」

御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。

見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人々に、今はもう六ヶ月です。

神にとって不可能なことは何もありません。」

御使いのことばを受け止め切ることのできないマリアに、さらに御使いは告げます。マリアに与えられる子どもは聖霊による子どもであること。処女マリアが、聖霊によってみごもることが語られていました。聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおう。神さまの全能の力によってマリアはみごもり、救い主の母となるのだということです。さらに御使いガブリエルは、マリアの親類であったエリサベツとザカリヤ夫妻に起こった出来事をもってマリアを励まします。エリサベツのお腹に子どもが与えられている。不妊と言われたエリサベツがヨハネをみごもっている。そこに神さまの恵みと力が現されていました。そして御使いは語ります。「神にとって不可能なことは

何もありません。」この言葉は、原文のギリシャ語を見てみると「神さまのことで不可能になることは何もない」という、そんな表現が使われています。そしてこの「こと」という言葉。不可能なことはありませんの「こと」というのは「言葉」とも訳すことのできる言葉です。神の言葉で、不可能になるものは何もない。そんな風にも37節を訳すことができます。神さまが語られることで、不可能になることはない。神さまが語られる言葉は、必ず成就する。神さまがおっしゃるなら、それは不可能なことにはならず、必ず実現するのだということです。必ず成就する神さまのみことば。その確かさと真実をガブリエルはマリアに語ったのでした。

私たちが聖書を通して聞く神さまのみことば。イエスさまを通して私たちに語られたみことばは、必ず成就する御言葉です。旧約聖書のイザヤ書にはこんな御言葉があります。

**雨や雪は、天から降って、もとに戻らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種蒔く人に種を与える、食べる人にパンを与える。**

**そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。**

神さまの語られるみことばは、決して空しく帰ってくることはない。必ず成し遂げられると言われていました。私たちの信じるみことばも、決して空しく終わることはない。必ず成就する。そのことを私たちは信じて、聖書のみことばに信頼して生きる者とされたいと思います。

事実このガブリエルを通してマリアに告げられた予告は、旧約聖書のみことばが成就することを教えるものもあります。ガブリエルがマリアに語った事柄の中に「ダビデの王位」という言葉がありました。ダビデの王位。これは、かつてのイスラエルの王ダビデに、神さまが約束してくださった恵みの契約を表しています。ダビデの子どもを通して、その子孫によって神さまは王国を確立させてください、永遠に治める王を立ててください。そのように旧約聖書には約束されました。その約束の通りに、救い主イエスさまはダビデの家系にお生まれになった。そのことを聖書は私たちに教えてています。

クリスマスの出来事、救い主イエスさまのお誕生は、聖書の約束が確かであること。神にとって不可能なことは何もないことを私たちに教えます。神さまのみことばは必ず成就する。この約束を私たちは信じて、この地を歩む者とされたいと思います。神さまが私たちに約束しておられることとは一体なんでしょうか？それは色々な言い方ができると思います。私たちの生きるこの世界がいつまでも続くものではないこと、世の終わりのことなども聖書は教えてています。この世界全体を神さまが支配しておられること。どんな人の力や権威にも必ず終わりが来ることを聖書は教えている。そのような歴史的な、世界大のことを約束を語るとともに、私たち小さな一人ひとりに注がれている神さまの恵みもみことばは教えています。それは一言で言えば、神さまが私たちとともにおられるということです。今朝のみことばでガブリエルはマリアにこうあいさつしました。28節。

**御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」**

「おめでとう」と訳される言葉は、喜びなさいという言葉です。主があなたとともにおられる。そこに喜びがある。これはクリスマスの出来事を通じて繰り返し語られるメッセージであり、聖書全体が私たちに教えている恵みの約束です。主があなたとともにおられる。この約束は決して変わらず、私たちの日々の歩みを通して豊かに実現していく。そのことを私たちは覚える者でありたいと思います。主があなたとともにおられる。私たちのためお生まれくださった神の子イエスさまは今日も明日も、私とあなたと一緒にいてくださる。この恵みの約束を私たちは信じてこの地を生きる者とされたいのです。

先日私は先月施設に入られたS姉妹をお訪ねすることができました。数人の方と一緒に訪問し、とても親しい交わりを持つことができ感謝でしたし、Sさんもとても喜んでくださいました。Sさんの近況を伺い、Sさんが色々なところを通りながらも、神さまの守りと助け、導きの中を歩んでこられたことを改めて知ることができました。神さまは確かにSさんとともにいてくださいました。この神さまは変わらず、私たちとともにいてくださる。そのことをともに覚える時となり感謝しています。「主があなたとともにおられます。」この約束に信頼して、心からの感謝と喜びのうちに日々を歩む者でありたいと思います。

### **主のおことばどおり**

そしてこのみことばの約束を信じ生きることは、決して私たちの思いや願いの通りにはいかない。そんな苦難や大変なことを背負うことでもあることを最後に覚えたいと思います。38節。

**マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。**

マリアは神さまのみことばを受け入れ、そのことばどおりに自分の身になるようにと答えました。この「おことば」とは先ほどの37節で不可能なことはない「こと」と訳されていた言葉と同じです。自分の身にみことばがなるように。自分を通して神さまのみことばが実現しますようにとマリアは願いました。これは彼女の状況を考えるととても過酷で困難の伴う決断であったと思います。

まだ結婚していない女性、婚約者のある女性がみごもっている。聖書は明確に結婚外の性的な関係を禁じていますから、マリアがそのような罪を犯した女性だと見なされる危険や、実際それによって処罰を受ける危険性もありました。これから結婚しようとしているヨセフやその家族から理解を得られる保証もどこにもありません。そんないわばリスクだらけの決断を、この時マリアはしたのです。「あなたのおことばどおり、この身になりますように。」聖書はもちろん恵みの約束を私たちに語りますが、その約束を信じみことばに従うことは決して簡単な道ではありません。みことばは世の中の考え方や常識、一般的な物の見方とは違うことを私たちに求めることもあります。時に人から白い目で見られたり、信仰ゆえに誤解されたり馬鹿にされたり恨まれたりすることもあるかもしれません。エペソ人への手紙の最後でともに見たように、靈的な戦い、信仰の戦いが私たちにはあるのです。しかし「神にとって不可能なことは何もありません。」神さまのことばは必ず成就する。そう信じて信仰の一歩を踏み出す時、神さまは必ず私たちを助け支えてくださるのです。事実マリアはここから、神さまの助けと守り、導きの中で救い主イエスさまの誕生を迎えることとなっていきます。私たちもまた、試練や苦難の中を通るとも、主の恵みに信頼して信仰の一歩を踏み出す者でありたい。主のおことばどおりこの身になりますように。そのことを心から願いながら、みことばに誠実に真実に聞き従う者とされていきたいと思います。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」「どうぞ、あなたのないことばどおり、この身になりますように。」

今日も私たち一人ひとりとともにいてくださる神さまが、私たちの人生を守り支え導いていてくださる。戦いや困難の中を通る時にも、私たちを励まし勝利を与えてくださる。この恵みの約束に信頼して「どうぞ、あなたのすことばどおり、この身になりますように。」そう心から祈りつつ今週も歩んでまいりたいと思います。

お祈りをいたします。

「天のお父さま。みことばをありがとうございます。神にとって不可能なことはない。神さまの語られるみことばは必ず成就する。恵みの約束を私たちに今日与えてくださっていますことを感謝します。どんな時もともにいてくださるイエスさまに信頼し感謝して、今週もまたあなたのみことばのとおり、この身になりますようにと心から願い祈りつつ生きる私たちとなさせてください。あなたの恵みが今週もお一人おひとりに豊かに注がれますように。みことばに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」